

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくらさいたま東浦和教室		
○保護者評価実施期間	2025年10月15日		2025年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2025年10月25日		2025年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>○保護者様との密なコミュニケーション 児発管を中心に、日々の活動の様子を積極的に共有を行うほか、保護者様からの相談・支援に対する要望なども随時受け付け、療育に還元しています。 保護者様からは「日頃から子どもの状況を伝え合い、共通理解ができている」の項目に多くの回答をいただいています。</p>	<p>○必要に応じた園訪問 保護者様とのコミュニケーションの中でも、特に多くご要望いただく「園訪問」は積極的に行っています。 事業所での療育と、子どもたちの園での生活をより円滑につなげていくためにも必要な場だと考えています。 園と事業所での詳細な様子を保護者様にお伝えすることができるため、不安の軽減にもつながっています。</p>	<p>○他療育機関との連携 園訪問は積極的に行うことができているが、通われているお子様の併用先の事業所への訪問などが進むと、こどものレベルに応じた環境の提案がしやすくなると思います。 保護者様の不安感の軽減だけでなく、よりよい療育が提供できるようにしていきます。</p>
2	<p>○様々なプログラムの提供 通っていただいている児童に合わせた、日々のプログラムの提供により児童が様々な経験や体験ができるものとなっています。 保護者様からも、「プログラムが固定化されずに工夫されている」とお答えいただいています。 公共の場でのルールやマナーを経験し理解できるものを今後も取り入れていきたいと考えています。</p>	<p>○保護者参加型プログラムやイベントの開催 児童のためはもちろんのこと、保護者様にも寄り添った事業所となれるように、成長を感じられるプログラムや一緒に楽しんでいただけるプログラムの提供を心掛けています。</p>	<p>○きょうだい向けイベントの開催 ご利用のお子様だけでなく、きょうだいも参加できるイベントを開催していきます。 未就園のきょうだいを持つ保護者様の不安軽減にもつながると考えます。</p>
3	<p>○共感的な支援 職員間で子どもたちひとりひとりの課題感についての共通認識持ち、支援に臨んでいることが要因になり、「共感的に支援をされている」という意見をいただいています。 保護者様だけでなく、ご利用のお子様の気持ちに寄り添う関わりを意識して支援に取り組んでいます。</p>	<p>○個別支援計画の共有 更新のタイミングだけでなく、定期的に子どもたちそれぞれの支援計画について、現状の報告と共有を行っています。 「現状」を支援に入る職員みんなで把握することで、共感的な支援につながっています。</p>	<p>○より詳細に現状を把握し合える環境設定 職員それぞれが支援で感じたことをより詳細に共有できる仕組み作りを行い、より深くお子様の課題に寄り添った支援につなげます。</p>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>○緊急時対応マニュアル等、各種マニュアルの周知または、諸訓練の不足 保護者対象のアンケートでは「諸訓練の実施」「各種マニュアルの周知」の項目で不明点があるとの回答を多くいただきました。 現状、マニュアルの周知はできておらず、訓練は定期的を実施しているが、全児童を対象に実施できていないのが実情です。</p>	<p>○要因 ・保護者様へのマニュアルの周知方法が確立されていないこと。 ・定期的な訓練だけでは、その日に参加できたお子様のみが対象となってしまう、全児童を対象に訓練を行うことができていないこと。 ・訓練の様子を報告する手段を確立していないこと。</p>	<p>○改善に必要な取組み ・作成した各種マニュアルは、保護者様の目に見える形で掲示などをしていきます。 ・訓練は、できるだけ多くの児童を対象に実施ができるよう、週のプログラムに組み込むなどの工夫をしていきます。 ・訓練を行った後は、連絡帳だけでなく対象の児童の保護者様以外の保護者様にも見ていただけるように、活動報告やブログで様子を伝えていきます。</p>

2	<p>○きょうだい向けイベントの不足 就園前のきょうだいがいる保護者様から、同年代のお子様の集団で活動する機会がなく、通われているお子様と同様に不安があるのできょうだいも一緒に参加できるイベントを開催してほしいとの声をいただきました。 同じ悩みを持つ保護者様同士、横のつながりをもつことで不安の軽減になると思うので、きっかけになるイベントを定期的に開催する必要性を感じています。</p>	<p>○要因 ・個別の関わりは定期的に行っているが、保護者様同士が顔を合わせる機会の提供が少なかったこと。 ・イベント立案の際、通所児童のきょうだいを対象にするという考えがなかったこと。 ・仕事をされている保護者様が多い中で、イベント開催の日程調整や内容を考える難しさがあったこと。</p>	<p>○改善に必要な取り組み ・保護者会を定期的に行えるような仕組み作りをしていきます。 ・きょうだい向けイベントという視点を持ち、新たにイベント開催に向け企画を進めていきます。 ・イベントのみならず、個人との関わりの中でもきょうだいの相談がしやすい環境を作っていきます。</p>
3	<p>○地域連携の不足 事業所と地域社会との連携不足が、子どもたちの成長に必要な経験を提供する上での課題となっています。 現在、子どもたちが教室以外で活動する機会は公園や商業施設などの限られた場所になっており、活動の際もほかのコミュニティの人たちと関わる機会はほとんどない状況です。 場所を変えて得られる経験の提供だけでなく、ほかのコミュニティの人たちと関わる機会の提供も必要だと感じます。</p>	<p>○要因 ・日程調整や、活動内容の決定の難しさ。地域施設と連携を図る際に、お互いの日程を調整することや、双方に有意義な内容を考えることの難しく、実施に至っていないこと。 ・イベントとして連携を実現することができたとしても、継続的な連携を考えたときよりハードルが上がること。</p>	<p>○改善に必要な取り組み ・すぐに地域との合同活動を開始することは現実的ではないですが、教室に通われているお子様の幼保園や他事業所を中心に直接伺い、施設の様子を確認し、出来る範囲で情報共有を行います。 ・まずは当事業所主催イベントの一部などで、地域の施設に協力を仰ぎ、関わりを増やしていきます。</p>

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくらさいたま東浦和教室		
○保護者評価実施期間	2025年10月15日		2025年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2025年10月25日		2025年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>○活動に十分なスペースを確保できる環境設定 集団活動や運動に取り組める広い空間を確保しており、事故やケガにつながらないよう、物の配置にも気を配っています。 気持ちを落ち着かせるための個室も、いつでも使えるように整備しています。</p>	<p>○子どもたちの意見を取り入れた環境設定 過ごしやすい環境を提供するために、実際に教室で過ごす子どもたちに意見を聞きながら物の配置などを行っています。 視覚提示の情報なども、必要であるかの意見をもらいながら運営をしています。</p>	<p>○誰でも清潔を保てる仕組み作り スペースの確保、落ち着いて過ごせる環境設定は意識的に行っているが、本やおもちゃなど細かいものの整理整頓を子どもたち自ら行えるような仕組み作りを行います。</p>
2	<p>○日替わりのプログラム 通っていただいている児童に合わせた、日々のプログラムの提供により児童が様々な経験や体験ができるものとなっています。 保護者様からも、「プログラムが固定化されずに工夫されている」とお答えいただいています。 公共の場でのルールやマナーを経験し理解できるものを今後も取り入れていきたいと考えています。</p>	<p>○保護者参加型プログラムやイベントの開催 児童のためはもちろんのこと、保護者様にも寄り添った事業所となれるように、成長を感じられるプログラムや一緒に楽しんでいただけるプログラムの提供を心掛けています。</p>	<p>○きょうだい向けイベントの開催 ご利用のお子様だけでなく、ごきょうだいも参加できるイベントを開催していきます。 未就園のごきょうだいを持つ保護者様の不安軽減にもつながると考えます。</p>
3	<p>○共感的な支援 職員間で子どもたちひとりひとりの課題感についての共通認識を持ち、支援に臨んでいることが要因になり、「共感的に支援をされている」という意見をいただいています。 保護者様だけでなく、ご利用のお子様の気持ちに寄り添う関わりを意識して支援に取り組んでいます。</p>	<p>○個別支援計画の共有 更新のタイミングだけでなく、定期的に子どもたちそれぞれの支援計画について、現状の報告と共有を行っています。 「現状」を支援に入る職員みんなで把握することで、共感的な支援につながっています。</p>	<p>○より詳細に現状を把握し合える環境設定 職員それぞれが支援で感じたことをより詳細に共有できる仕組み作りを行い、より深くお子様の課題に寄り添った支援につなげます。</p>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>○緊急時対応マニュアル等、各種マニュアルの周知または、諸訓練の不足 保護者対象のアンケートでは「諸訓練の実施」「各種マニュアルの周知」の項目で不明点があるとの回答を多くいただきました。 現状、マニュアルの周知はできておらず、訓練は定期的に実施しているが、全児童を対象に実施できていないのが実情です。</p>	<p>○要因 ・保護者様へのマニュアルの周知方法が確立されていないこと。 ・定期的な訓練だけでは、その日に参加できたお子様のみが対象となってしまう、全児童を対象に訓練を行うことができていないこと。 ・訓練の様子を報告する手段を確立していないこと。</p>	<p>○改善に必要な取組み ・作成した各種マニュアルは、保護者様の目に見える形で掲示などをしています。 ・訓練は、できるだけ多くの児童を対象に実施ができるよう、週のプログラムに組み込むなどの工夫をしています。 ・訓練を行った後は、連絡帳だけでなく対象の児童の保護者様以外の保護者様にも見ていただけるように、活動報告やブログで様子を伝えていきます。</p>
2	<p>○地域連携の不足 事業所と地域社会との連携不足が、子どもたちの成長に必要な経験を提供する上での課題となっています。 現在、子どもたちが教室以外で活動する機会は公園や商業施設などの限られた場所になっており、活動の際もほかのコミュニティの人たちと関わる機会はほとんどない状況です。 場所を変えて得られる経験の提供だけでなく、ほかのコミュニティの人たちと関わる機会の提供も必要だと感じます。</p>	<p>○要因 ・日程調整や、活動内容の決定の難しさ。地域施設と連携を図る際に、お互いの日程を調整することや、双方に有意義な内容を考えることの難しく、実施に至っていないこと。 ・イベントとして連携を実現することができたとしても、継続的な連携を考えたときによりハードルが上がること。</p>	<p>○改善に必要な取組み ・すぐに地域との合同活動を開始することは現実的ではないですが、教室に通われているお子様の幼保園や他事業所を中心に直接伺い、施設の様子を確認し、出来る範囲で情報共有を行います。 ・まずは当事業所主催イベントの一部などで、地域の施設に協力を仰ぎ、関わりを増やしていきます。</p>
3	<p>○子どもが積極的に参加したいと思えるプログラム作り 「子どもは通所を楽しみにしているか」という項目に対して分からないとの意見を多くもらいました。 活動に参加ができれば楽しんでもらっているものの、参加するまでのハードルが高い、気持ちが乗らないなどの現状があります。</p>	<p>○要因 ・児童発達のプログラムと比べ、アカデミックスキルやコミュニケーションスキルの獲得をメインの活動とすることで、「遊び」の要素を絡めて提供することができておらず、子どもたちにとって「頑張る活動」になってしまっていること。</p>	<p>○改善に必要な取組み ・それぞれの児童に合わせたレベル感でプログラムの提供ができるように内容を細分化し、レベルに合わせて提供していく。 ・子どもたちがやりたいと思えるよう、プログラム名などに工夫をしていく。</p>